

令和7年度 第1回 幸田町総合戦略推進委員会 議事録

○日 時：令和7年8月29日（金）

○場 所：役場 4F 第3第4委員会室

○出席者：委員及びオブザーバーの計15人、町事務局等20人

○協議内容と主な意見等

- ・「幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要、第2期総合戦略の振り返り、第3期総合戦略の策定に向けて、委員から以下のようなご意見をいただきました。

●第2期総合戦略の振り返り

- ・未達成のKPI（重要業績評価指標）は、達成できなかった理由や課題を整理した方が良い。
- ・推進施策を実施したことで得られた効果や効果発現の要因を把握すると良い。また、事業の成果をKPIとして設定し、評価してはどうか。
- ・計画の振り返りを行う際は、事業ごとにPDCAサイクルを回して評価を行い、事業が進んでいない、あるいは失敗した事業について修正すると良い。

●第3期総合戦略の策定に向けて

- ・KPIは、事業を実施することで得たい成果と、外部要因が与える影響の度合いを踏まえて設定した方が良い。
- ・産業政策ではAIを念頭においたデジタル化を進める必要があるため、人材育成も含めて、施策として注力してほしい。
- ・子ども達がイベントを企画したり、活動したりできる場があると、中高生の居場所づくりにつながるだけでなく、幸田町が様々なことに挑戦できる場所だと感じてもらえるようになると思う。
- ・東南海地震が発生した場合、避難生活が長期化することが予想される。第2期総合戦略では避難所の迅速な開設の体制構築を進めてきたが、今後は住民主体で避難所の開設や運営管理を行えるようにノウハウを蓄積する必要があるため、第3期総合戦略の中に入れ込めると良い。
- ・多言語で情報発信することで関係人口・交流人口の拡大につなげている自治体があるため、世界と幅広くつながる発想で事業を進めていくことで、幸田町の存在感を高めることができると考える。

●幸田町の人口について

- ・これまで幸田町が人口増加にあった要因は企業誘致以外にもあるため、より詳細な分析を行った方が良い。
- ・近年、幸田町の人口が減少し始めているため、人口を増加・維持するための取組を戦略的に考える必要がある。
- ・小学校に通う児童数をみると、新興住宅地は一時的に増加するがピークを過ぎると減少するが、古くからの集落地では一定数維持できている。集落地は、そこで育った子どもが大人になって親元に戻ってきていると考えられ、新興住宅地についても、子どもや人口を維持する対策を考えていく必要がある。

以 上